

第7回アジアこども会議

【日 時】 2000年7月27日（木） 15：00～17：15

【会 場】 如水会館（東京都・一ツ橋）

【来 賓】 高円宮兩殿下

岡田 康彦 環境庁事務次官
太田 義武 環境庁企画調整局長
松村 隆 環境庁環境保全活動推進室長

石井 吉徳 地球こどもクラブ会長
井田 敏夫 // 専務理事
田中 豊蔵 // 理 事
江森 陽弘 // 理事 審査委員長
長沢 光男 // 理事 審査委員
森 ミドリ // //
弥永 理絵 // 審査委員

藤田 彰 佐藤工業株式会社（理事代理）
高橋 利幸 佐田建設株式会社
岡部 修二 トヨタ自動車株式会社
安村 朝昭 松下電器産業株式会社
北條 賢吾 松下通信工業株式会社
岡田 太一 大成建設株式会社
内山 順子 コイット・メディア株式会社
中村 浩子 //
細谷 義隆 トライボット・プランニング株式会社
樋口 博夫 //
南埜 良平 //
橋本 知洋 //
中川 聡 トライボット・デザイン株式会社
廣瀬 小夜子 ビーラックスオアシス株式会社
黒河内 孝一 学校法人 野方学院
ルテス G・リマン・タバモ フィリピン共和国大使館 副領事

【出席者】 コンクール入賞者 21名
通訳者 8名

【参加者】 入賞者家族
マスコミ関係者

【総合司会】 小林 恵理

【進 行】 三好 佐知 [東京都環境局 総務部企画課主任（地球企画担当）]

【内 容】

■テーマ 「身近なところから環境問題を考えよう」

午後3時15分参加者全員が着席し、高円宮殿下・妃殿下のご入場後、司会者より開会の宣言「この会議は国や地域の問題、学校や家庭単位の地域性の違いを認識し、考え・発言をしていただく場である」ことの説明があった。その後、主催者代表より挨拶を頂き、アジアこども会議は開会した。

①まず進行役の三好佐知さんより、自己紹介と自分の働いている部署の仕事内容の説明があり、その後環境問題をわかりやすくまとめている東京都製作の『地球は今』というビデオを通して、代表的な9つの環境問題について勉強した。

②三好さんより「自分が住んでいる地域や国では、どんな環境の問題があるのか」との問いに、参加国の子供たちに意見を発表してもらった。

<中 国> 車の排出ガスが基準以上に排出され大気汚染が進み、特に北京ではすでに青い空が見えなくなってきている現状、工場の廃水も基準以上に直接海に排出され、海の動物たちが死亡していること、また北京周囲の地方では田植えのために木の大量伐採により砂漠化が進み、北京市が今年9日間連続して砂雲におおわれたことなどが発表された。

<韓 国> 1980年代以降急激に発展した工業化及び都市化の問題により、産業廃棄物の発生がこの5年間で4～5倍に増え、韓国の4大河川の汚染もかなり深刻であること、また農薬の使用量が過去20年間で4倍以上に増え、土壌汚染の深刻さも発表された。

<フィリピン> 米軍基地に残された化学廃棄物の問題と工場から排出される化学薬品廃棄物について、処分方法を考える必要があるとの発表があった。

その他、ゴミ問題で特に分別、プラスチック・ポリ袋の使用、森林伐採による地球温暖化の問題、オゾン層破壊による紫外線警報や、酸性雨の問題が各国より発表された。

③②の発表をふまえ、「この環境汚染を減らすためにそれぞれの国や自分自身で取り組んでいることはあるか」の問いに、子供たちより意見を求めた。

a) 環境を守るためには、使用することを減らす（リデュース）、何度も繰り返し使用する（リユース）、リサイクルに廻す（リサイクル）の3つのRが必要である。シンガポールでは毎年4月21日の「地球の日」に学校でリサイクル用の新聞を集めるコンテストを行っていて、去年は国全体で何百トンもの新聞が集まった。

b) タイのカオヤ国立自然公園主催の環境保護キャンプに参加した。これは子供たちに環境保護を意識させるためのキャンプで、7歳位から約50名が参加した。こういった、全ての子供たちに対するキャンペーンが必要。

c) 中国では、環境保護のために多くの措置を作り出した。野生の動物公園、住民を動員しての植林、車の排気管への浄化器の取付、工場の排水制限、工場熱源を石炭からLPガスへ転換等。

d) マレーシアでは、家族が木を1本植えることを政府が要望。また環境保護啓蒙のために15分間のアニメをキャンペーンとして毎日放送している。

e) 自動車の排気ガスを削減するために、個人乗用者は利用せず公共車や電車、自転車を利用。

f) ゴミは各家庭でしっかり分別して捨てる。

④「地球を守るために、今起こっている環境問題をどうしたら良いと思いますか」の問いには次の発表があった。

- a) 子供も大人も地球環境と共に歩むことが必要である。
- b) 自ら自覚して行動することが必要である。
- c) 自分たちの地球を守るために、子供でも環境保護を担う責任があることを教える。
- d) 少しずつでも良いからお互いの協力が必要である。
- e) 一人ひとりが考え、何をすれば地球環境に良いかの行動力が必要である。

など、昨年を引き続き大変すばらしい意見が交わされた。

⑤上記のアジア9カ国の子供たちの意見を、「私から始めよう！元気な地球をとりもどすため、大人もちゃんとじかくをもって協力しましょう」を『こどもアジェンダ21』として宣言書にまとめ、岡田康彦環境庁事務次官（長官代理）に各国代表の子供たちから手渡され、アジアこども会議を閉会した。

コメント

【事業の成果】

地球環境をいかに守るかは、我々一人ひとりの認識の問題です。

この第7回アジアこども会議に参加した子供たちの認識の高さ、及び発表の内容から判断される知識のレベルの高さは、高円宮両殿下をはじめ、出席した大人たちにとっても大変勉強になり、21世紀の地球環境保全を担うためにふさわしい人間育成に大いに役立つ会議であることを改めて認識しました。

また、この会議に参加した9カ国の子供たちにとっても、他の国の環境問題の状況の違い、及びそれぞれの環境問題の認識の違いなどがわかり、各人に今後どうすれば良いかを考えさせる場を与えることができたと思います。

子供たちがこの会議に参加して得た認識、及び知識を、それぞれの国・地域に持ちかえり啓蒙活動の輪を大いに広げていくものと期待するとともに、さらに、日常生活ではなかなかできない高円宮殿下・妃殿下及び環境庁長官との交流、そして他国の子供たちとの国際交流の体験は、地球環境問題に留まらず今後大いに役立つことを願います。

【自己評価】

東京都環境局三好さんのご協力により、子供たちに大変わかりやすいレクチャーをいただき、彼らから上手に意見を引き出し、会議を成功裡に導くことができました。ただ、海外の子供たちの発表内容・態度などと見比べ、日本の子供たちには発言力の弱さがまだまだ見られ、今後は国内の子供たちの発言力強化に一考していきたいと反省しました。

【フォローアップの方法】

今後は参加してくれた子供たちとの交流、及びフォローアップ体制を強化するために、9月より開設したインターネットによる環境教育の発信に力を入れるなど、子供たちへの広報活動を強化していく考えです。